

## センター概要

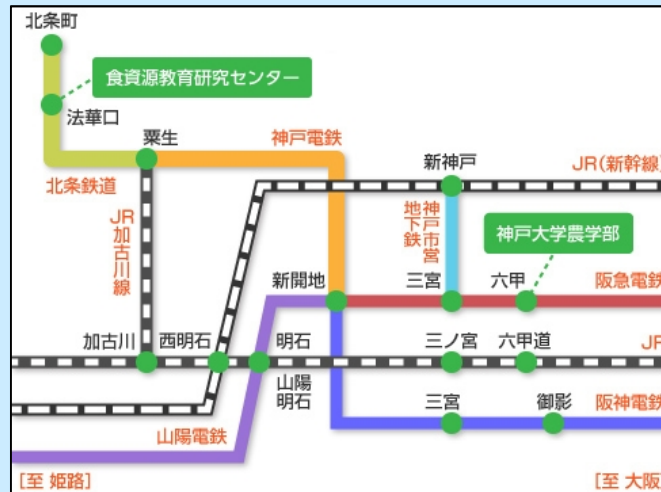
食資源教育研究センターは、兵庫県加西市の播州平野に位置し、神戸大学農学部附属農場を母体として2003年に設置された総合農場です。



総面積40ヘクタールの広大な敷地で、ウシ、ナシ、ブドウ、イネ、パレイショ、タマネギなどを多彩な農作物を生産し、農学部生の実習教育を行っています。



食資源教育研究センターでは、持続的食料生産を担うため、植物遺伝資源の探索・収集・保存・評価・管理・利用に関する研究を行っています。また、動物資源の評価・構造解析を駆使した効率的かつ持続的な育種改良システムの構築に関する研究にも特徴があります。



文部科学省教育関係共同利用拠点

農場と食卓をつなぐ  
フィールド教育拠点

# 食と農業を学ぶ フィールド演習

神戸大学大学院農学研究科附属  
**食資源教育研究センター**  
[www.edu.kobe-u.ac.jp/ans-foodres/](http://www.edu.kobe-u.ac.jp/ans-foodres/)

〒675-2103  
兵庫県加西市鶉野町1348  
Tel : (0790) 49-0341  
Fax : (0790) 49-0343



メールでのご連絡・お問い合わせ

[ans-centerjim@office.kobe-u.ac.jp](mailto:ans-centerjim@office.kobe-u.ac.jp)  
(センター事務室)



神戸大学大学院農学研究科附属  
**食資源教育研究センター**



# 農場と食卓をつなぐ フィールド教育拠点

食資源教育研究センターは、「農場と食卓をつなぐフィールド教育拠点」として文部科学省教育関係共同利用拠点の認定（2014年度から5年間）を受けました。

この制度は各大学が自らの強みを持つ分野へ取組を集中させるとともに、他大学との連携を進めることによって、大学教育全体としてより多様で高度な教育を展開する目的で実施されています。

これまでに、果樹の収穫・調製と機能性成分の計測、旬野菜の収穫と出荷作業、米の収穫と品種の多様性、鶏卵の鮮度測定、農薬と食の安全、和牛の飼養管理と個体識別、野菜品種と食味性など、食資源教育研究センターならではの個性的な実習メニューを組み込んだ3つの教育プログラムを準備し、多くの大学の实習を受け入れてきました。

実習はおひとりでも、グループでも、学科単位でも参加できます。費用は無料（ただし宿泊の場合は600円/泊、食事代は実費）です。参加するプログラムや人数によっては送迎バスの手配もあります。

ぜひこの機会に、食卓にのぼる農作物がつけられる現場を知り、食の安全や遺伝資源の多様性について学んでみませんか。

私たちが  
担当します



## 農場から食卓まで

（主に非農学系学生対象）

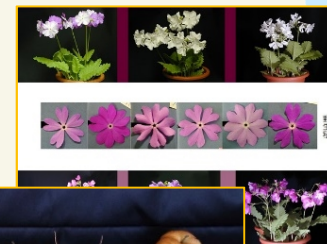
農業を学ぶことに加え、収穫の喜びを感じ、生命を食するまでを体験するプログラム。実際の生産フィールドでなければ味わえない五感を使った体験の中で、農業と自分とのつながり、食べ物の有難さ、食の安全性などを学びます。



## 農業と遺伝資源

（主に生命科学系対象）

野生種の栽培化、家畜化のプロセスを知り、遺伝資源の多様性や農業における遺伝資源の意味を学ぶプログラム。



## 実践食料生産

（主に農学系学生対象）

神戸大学農学部生と共に農業生産現場の実情を理解し、農業の原理と技術を学ぶプログラム。神戸市内の六甲キャンパスから無料送迎バスが利用できます。



## 利用者の声

食べ物の大切さを感じた

食べ比べがよかった

農業の抱える課題も知ることができた



※センターのホームページやFacebookでも実習の様子を発信しています。